

急性低音障害型感音難聴について

原因不明で、急性あるいは突発性に感音難聴をきたす、とても多い病気です。臨床的には、有名な突発性難聴とメニエール病のちょうど中間に位置します。1990年頃にわが国で認められるようになった新しい病気です。

どんな病気か

原因は不明ですが、職場や家庭での精神的ストレス、個人的な心配事・過労・体調不良などが誘因となることが多いといわれています。

発症は、急性あるいは突発性に起こります。

自覚症状として、耳閉塞感、耳鳴（ゴー・ポーなどの低い音）、難聴、聴覚過敏（周囲の特に低い音が不愉快に響く）などがあります。一侧（時に両側）に自覚します。

病気の特徴

次の4点があげられます。

発症しやすい性格（思考行動傾向）があります。まじめで几帳面・責任感の強い頑張り屋がかかりやすいといわれています。

結婚・出産・育児にかかわる若年女性に多い病気ですが、全年齢層に（中高年齢者にも）発症します。

聴力障害の特徴は、低音域に限局し、程度は軽度～中等度です。

障害部位は、一侧（まれに両側）の内耳です。

治療

薬物治療と生活習慣の改善を組み合わせて行います。

薬物治療としては、循環改善薬、イソソルビド製剤、自律神経調整薬などを使い、難治例にはステロイド薬や抗不安薬、抗うつ薬を使うこともあります。

生活習慣の改善としては、規則的な生活を行い、十分な睡眠をとること、小汗をかくような有酸素運動（速歩歩行、エアロビックなど）を週1～2回以上行うことを心がけてください。難治例には心理学的治療（認知行動療法）が必要なこともあります。

治療後の経過

再発しやすいが多くの場合は治ります（予後良好）。

罹患した100人中の割合は、60人が再発なし、40人が同側（時に反対側）に再発をきたし、そのうち約10人がめまいを反復するようになってメニエール病に移行するとされます。

治療後の留意点

この病気は長期にわたる経過観察が大切です。そのため、以下の点に留意してください。

自覚症状と聴力障害が合わないことがあります。治療確認のために来院してください。

難治例（不変悪化例、頻回再発例、メニエール病移行例）や他疾患（聴神経腫瘍など）合併例が時にみられます。

自然治癒傾向がある病気ですが、再発して3日経過しても症状が変わらないときには、早めに来院してください。

吐き気を伴うめまいを自覚した時は必ず来院してください。

